



## 2023年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年2月13日

上場会社名 株式会社 NEW ART HOLDINGS

上場取引所 東

コード番号 7638 URL <https://www.newart-ir.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 白石 幸生

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 財務・経理統括部長 (氏名) 福井 葉

TEL 03-3567-8098

四半期報告書提出予定日 2023年2月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	16,276	15.6	2,528	29.2	2,616	22.9	1,289	7.9
2022年3月期第3四半期	14,083	3.1	1,956	2.4	2,128	8.5	1,195	3.2

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 1,409百万円 (30.5%) 2022年3月期第3四半期 1,080百万円 (4.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	82.11	
2022年3月期第3四半期	75.37	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	20,929	8,959	42.0
2022年3月期	20,906	9,648	45.4

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 8,794百万円 2022年3月期 9,498百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		75.00	75.00
2023年3月期		0.00			
2023年3月期(予想)				100.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	21,700	15.9	3,700	37.1	3,800	29.2	2,200	48.7	138.80

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	16,626,375 株	2022年3月期	16,626,375 株
期末自己株式数	2023年3月期3Q	1,257,546 株	2022年3月期	683,082 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	15,706,280 株	2022年3月期3Q	15,859,567 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報) .....	10
(重要な後発事象) .....	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2022年4月1日～2022年12月31日）は、売上高及び利益ともに前期を大きく上回る業績を挙げることが出来ました。2023年2月6日に開示させて頂きましたとおり、2023年3月期の通期連結業績予想を上方修正することが出来た要因は、ジュエリー・アート・オークション事業が物価高騰や円安の影響もある中、変革を生み出し続ける企業として、世界的逆境の経済環境の中、適切な対応策を迅速に実行し、堅調に業績を伸ばすことができたからです。結果として大多数の株主様の予想を上回る大きな成績を上げる事が出来たのです。

当第3四半期連結会計期間における当社グループの業績は売上高162億76百万円（前年同期比15.6%増）、営業利益25億28百万円（前年同期比29.2%増）、経常利益26億16百万円（前年同期比22.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益12億89百万円（前年同期比7.9%増）となりました。

「みんなの夢の企業グループNEW ARTはアートの持てるすべての力であなたを美と健康と幸せに導きます」という企業理念のもとに、2023年3月期の期末配当は、業績が上向きに安定して好調に推移している為、株主の皆様への感謝の意を表して、感謝特別配当30円を加算した「1株につき100円」を予定しております。

各セグメントの業績は、次のとおりであります。

### ①ジュエリー・アート・オークション事業

当第3四半期連結会計期間における、ジュエリー・アート・オークション事業の売上高は142億3百万円（前年同期比19.0%増）、セグメント利益29億43百万円（前年同期比23.0%増）となりました。

当第3四半期連結累計期間においてブライダルジュエリー事業の業績は、ダイヤモンドの仕入高騰や国内外のブランド競争がある中、順調に推移致しました。要因として第2四半期連結累計期間に注力した地方エリアの集客強化と全店舗の接客教育により、当第3四半期連結会計期間に月間過去最高受注を更新する店舗が続出致しました。2022年12月2日にオープンした岐阜店も好調に推移しており国内は64店舗体制となりました。今後も国内未出店地域への新規出店を加速して参ります。

また、円安とロシア情勢の影響もあり、ダイヤモンドルースや地金は高騰し続けている状況ではありますが、仕入・製造部門のさらなる変革を生み出し続ける事により利益率を改善してまいります。今後もグループの基幹事業として、さらなる営業部門の積極的な成長展開と製造部門の強化改善を行ってまいります。

アート事業においては、新聞広告による集客が奏功し、高額作品の販売が成功して業績に寄与することが出来ました。

オークション事業においては、11月に東京オークションとして、ジュエリー、時計を含めたオールジャンルのオークションを開催し、2億59百万円の落札金額で終了致しました。今後は国内で2023年3月に開催し、その後海外オークションを香港にて2023年5月に開催する事が決定いたしました。2023年11月にはさらにステップアップしたシンガポールでのアートオークションも予定しております。香港やシンガポールのアートオークションは非課税にて開催できる為、世界のサザビーズやクリスティーズオークションのように、一点単価の高い高級絵画の出品が多くなります。従って、国内アートオークション3回～5回分の売上を、1回のオークションで達成することが可能となってまいります。今後も事業の柱となるよう万全の体制で取り組んでまいります。

### ②ヘルス&ビューティー事業

当第3四半期連結会計期間におけるヘルス&ビューティー事業の売上高は、コロナの影響も残り17億80百万円（前年同期比11.5%減）、セグメント損失1億12百万円（前期同期はセグメント損失3億7百万円）となりました。

当第3四半期連結累計期間は、エステ事業は引き続き抜本的な改革として事業全体の見直しを行い、販管費の削減を行いました。当第1四半期連結会計期間に立ち上げたヘルス&ビューティー研究所では、化粧品や健康食品の開発を進めており、健康食品に関しては商品化に向けた最終段階にあります。引き続き、エステ事業・化粧品事業・健康食品事業の3本の柱で売上拡大ができるよう商品開発を進めてまいります。

### ③その他事業

当第3四半期連結会計期間におけるその他事業の売上高は3億9百万円（前年同期比108.9%増）、セグメント損失38百万円（前年同期はセグメント損失7百万円）となりました。スポーツ事業においては、「CRAZY」ブランドで展開しているゴルフ用品の販路を広げるため、スポーツ量販店ゼビオ・ヴィクトリアへの卸売を推進致しました。2022年12月末時点で、全国36店舗への展開が済んでおり、今後も拡大を予定しております。代理店の拡大とゼビオ・ヴィクトリア店

の売上が増大することで、更なる業績拡大ができる事業であると考えております。

フィンテック事業においては、ヘルス&ビューティー事業のクレジット事業をすべて(100%)引き受け、確実に利益の出る体制の計画実現のため、業容拡大を目指して人員を増加し、大きく成長できる事業体制の構築を進めております。

また、ニューアート・リゾートと軽井沢ニューアートミュージアムを中心に進めている軽井沢開発事業は、建築家隈研吾氏の協力のもと、美術館とホテルを総合的に運営する軽井沢を代表するホテルグループになるよう進めてまいります。

その他の新規事業としては、第2四半期連結会計期間に設立したNEW ART総合研究所において、著名デザイナーとのコラボレーションによる高級家具や、様々なアーティストグッズ、ゴルフ向けグッズ等の企画開発を行っております。同研究所は既存事業の育成とグループの「次なる成長の種」を創出すべく、今後も外部企業との積極的な連携により、新たな事業の創出を進めてまいります。

(注) 各セグメントの業績数値は、セグメント間の内部売上高又は振替高を調整前の金額で記載しております。

当社グループのセグメント別売上は、以下のとおりであります。

セグメントの名称	販売・サービスの名称など	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日) (千円)	前年同期 増減率 (%)	構成比 (%)
ジュエリー・アート・オークション事業	ブライダルジュエリーの製造・販売、ブライダル関連サービス、美術品の販売、アートオークションの運営等	14,203,186	19.0	87.3
ヘルス&ビューティー事業	エステティックサロンの運営、化粧品及び健康食品等の製造・販売	1,764,305	△11.7	10.8
その他事業	クレジット事業、ゴルフ用品の製造・販売、関連スポーツ用品の開発・製造、ホテル・結婚式場の運営	309,366	108.9	1.9
合 計		16,276,858	15.6	100.0

(注) セグメント間の取引については相殺消去しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

流動資産は、前連結会計年度末比13億55百万円減少（前連結会計年度末比10.4%減）し、116億55百万円となりました。これは、受取手形、売掛金及び契約資産の増加9億51百万円などがありました一方で、現金及び預金の減少16億9百万円並びに商品及び製品の減少14億49百万円などによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末比13億78百万円増加（同17.5%増）し、92億73百万円となりました。これは、土地の増加8億59百万円、建物及び構築物（純額）の増加2億82百万円並びにのれんの増加1億26百万円などによるものであります。

この結果、総資産は前連結会計年度末比23百万円増加（同0.1%増）し、209億29百万円となりました。

(負債の部)

流動負債は、前連結会計年度末比14百万円減少（前連結会計年度末比0.2%減）し、84億34百万円となりました。これは、契約負債の増加3億52百万円などがありました一方で、支払手形及び買掛金の減少1億92百万円などによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末比7億26百万円増加（同25.8%増）し、35億35百万円となりました。これは、長期借入金の増加6億30百万円などによるものであります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末比7億11百万円増加（同6.3%増）し、119億69百万円となりました。

(純資産の部)

純資産は、前連結会計年度末比6億88百万円減少（前連結会計年度末比7.1%減）し、89億59百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益12億89百万円がありました一方で、剰余金の配当11億95百万円及び自己株式の取得9億2百万円などによるものであります。

以上の結果、自己資本比率は42.0%（前連結会計年度末は45.4%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期通期の業績予想につきましては、2023年2月6日に公表した業績予想から修正はありません。なお今後、業績予想について変更がある場合は速やかに公表を致します。

業績予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報に基づいて判断したものであり、実際の業績は業況の変化や予期せぬ事象の発生などによって、大きく異なる結果となる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,322,781	1,713,192
受取手形、売掛金及び契約資産	1,767,720	2,719,241
商品及び製品	7,000,188	5,550,639
仕掛品	45,081	53,616
原材料及び貯蔵品	244,909	262,287
前払費用	157,861	159,426
その他	837,640	1,499,807
貸倒引当金	△365,492	△302,779
流動資産合計	13,010,691	11,655,431
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,893,723	2,175,850
機械装置及び運搬具(純額)	4,896	4,213
工具、器具及び備品(純額)	829,223	866,815
土地	2,456,250	3,315,761
リース資産(純額)	273,375	263,988
建設仮勘定	80,539	193,372
有形固定資産合計	5,538,007	6,820,001
無形固定資産		
のれん	168,973	295,730
その他	32,468	67,833
無形固定資産合計	201,442	363,564
投資その他の資産		
投資有価証券	355,752	282,169
長期貸付金	250,400	200,000
繰延税金資産	268,797	237,308
敷金及び保証金	1,247,317	1,336,196
その他	314,668	328,084
貸倒引当金	△280,745	△293,381
投資その他の資産合計	2,156,190	2,090,377
固定資産合計	7,895,640	9,273,942
資産合計	20,906,332	20,929,374

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	482,884	290,765
短期借入金	3,620,000	3,692,330
1年内返済予定の長期借入金	577,441	710,645
リース債務	96,622	89,930
未払金及び未払費用	843,337	867,059
未払法人税等	389,624	546,307
契約負債	1,653,104	2,005,943
その他	785,769	231,473
流動負債合計	8,448,783	8,434,455
固定負債		
長期借入金	1,054,362	1,685,329
リース債務	185,927	145,274
退職給付に係る負債	236,458	257,690
資産除去債務	650,904	660,338
その他	681,644	786,721
固定負債合計	2,809,296	3,535,355
負債合計	11,258,079	11,969,810
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,617,252	2,617,252
資本剰余金	2,474,276	2,474,276
利益剰余金	5,263,667	5,357,544
自己株式	△499,283	△1,401,886
株主資本合計	9,855,913	9,047,186
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	27,393	△59,186
為替換算調整勘定	△384,597	△193,077
その他の包括利益累計額合計	△357,203	△252,264
非支配株主持分	149,542	164,641
純資産合計	9,648,252	8,959,563
負債純資産合計	20,906,332	20,929,374



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	14,083,107	16,276,858
売上原価	5,030,777	6,176,841
売上総利益	9,052,330	10,100,016
販売費及び一般管理費	7,095,912	7,572,013
営業利益	1,956,418	2,528,003
営業外収益		
受取利息及び配当金	8,029	7,708
為替差益	185,400	115,932
助成金収入	15,500	14,085
その他	16,953	8,964
営業外収益合計	225,884	146,690
営業外費用		
支払利息	43,261	48,591
貸倒引当金繰入額	10,157	6,802
その他	281	2,445
営業外費用合計	53,699	57,838
経常利益	2,128,603	2,616,855
特別利益		
固定資産売却益	45,184	—
投資有価証券売却益	—	1,170
特別利益合計	45,184	1,170
特別損失		
固定資産除却損	966	—
固定資産売却損	249	—
減損損失	6,193	40,383
関係会社株式評価損	—	20,484
関係会社清算損	—	249,901
特別損失合計	7,409	310,769
税金等調整前四半期純利益	2,166,378	2,307,256
法人税、住民税及び事業税	875,952	935,511
法人税等調整額	55,644	67,022
法人税等合計	931,596	1,002,534
四半期純利益	1,234,781	1,304,721
非支配株主に帰属する四半期純利益	39,513	15,098
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,195,267	1,289,623

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	1,234,781	1,304,721
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	157	△86,579
為替換算調整勘定	△154,884	191,519
その他の包括利益合計	△154,727	104,939
四半期包括利益	1,080,054	1,409,661
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,040,540	1,394,563
非支配株主に係る四半期包括利益	39,513	15,098

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年8月25日開催の取締役会決議に基づき、自己株式572,500株の取得を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において、自己株式が899,911千円増加しております。当第3四半期連結会計期間末において、自己株式が1,401,886千円となっています。

## (セグメント情報)

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ジュエリー・ アート・オー クション事業	ヘルス&ビュー ティー事業	その他事業	合計		
売上高						
顧客との契約から生じる 収益	11,909,552	1,993,735	133,911	14,037,199	—	14,037,199
その他の収益(注) 3	27,260	4,435	14,212	45,908	—	45,908
外部顧客への売上高	11,936,812	1,998,170	148,124	14,083,107	—	14,083,107
セグメント間の内部売上 高又は振替高	2,226	13,698	—	15,924	△15,924	—
計	11,939,039	2,011,868	148,124	14,099,032	△15,924	14,083,107
セグメント利益又は損失 (△)	2,392,398	△307,141	△7,087	2,078,169	△121,751	1,956,418

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、全社費用△121,751千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

3. その他の収益には、企業会計基準第10号「金融商品に関する会計基準」の範囲に含まれる金融商品に係る取引、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の範囲に含まれるリース取引等が含まれております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ヘルス&ビューティー事業」において、店舗資産に係る減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、6,193千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「その他事業」において、第2四半期連結会計期間より株式会社ニューアート・エトウエストオークションズ(旧 エスト・ウエストオークションズ株式会社)の株式を取得し、同社を連結子会社にいたしました。当該事象によるのれんの増加額は、184,335千円であります。

当第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ジュエリー・ アート・オー クション事業	ヘルス&ビュー ティー事業	その他事業	合計		
売上高						
顧客との契約から生じる 収益	14,171,976	1,761,825	281,143	16,214,945	—	16,214,945
その他の収益 (注) 3	31,210	2,480	28,222	61,912	—	61,912
外部顧客への売上高	14,203,186	1,764,305	309,366	16,276,858	—	16,276,858
セグメント間の内部売上 高又は振替高	784	16,380	—	17,164	△17,164	—
計	14,203,970	1,780,686	309,366	16,294,023	△17,164	16,276,858
セグメント利益又は損失 (△)	2,943,598	△112,075	△38,238	2,793,284	△265,280	2,528,003

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、全社費用△265,280千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

3. その他の収益には、企業会計基準第10号「金融商品に関する会計基準」の範囲に含まれる金融商品に係る取引、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の範囲に含まれるリース取引等が含まれております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より、新規事業の本格的な開始により、「ジュエリー・アート事業」の報告セグメントの名称を「ジュエリー・アート・オークション事業」に変更し、従来「その他事業」に含まれていたオークション事業の報告セグメント区分を「ジュエリー・アート・オークション事業」に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの名称及び区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

ヘルス&ビューティー事業において、店舗資産に係る減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、40,383千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

その他事業において、第1四半期連結会計期間より有限会社軽井沢エレガンスカンパニーの株式を取得し、同社を連結子会社にいたしました。当該事象によるのれんの増加額は、157,683千円であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。